



皆さんは、絵本は好きですか？絵本には沢山の魅力が詰まっています。今年度は、絵本に関する書籍を活用しながら《絵本について》ちょこっとお伝えしていきたいと思います。



4月の絵本紹介



『たまごのあかちゃん』

かんざわとしこ文・やぎゅうげんいちろう絵
福音館書店

たまごの中に、赤ちゃんがかくれんぼしています。大きなたまご、小さなたまご、沢山のたまご…それぞれのたまごから、色々な生き物が生まれ出てきます。思わず口ずさみたくなるリズムカルな文と、愉快的絵がマッチして、ページをめくると楽しくなる絵本です。

『おひさま あはは』

前川かずお 作 こぐま社

おひさまがあはは、おおきながあはは、おはなが…とページをめくるたびに、色々な生き物が大笑い。思い切り声を出すのは、気持ちがいいですね。絵本を通して声を出す事も、パワーあふれる絵と合わさって、ますます楽しい気分になります。是非お子さんと一緒にあはは！と楽しんで見てくださいね。

【絵本というものの意味や役割は『共に居る』という事です。子どもが「本をよんで！」というのは「一緒にいて！」という事です。】

『絵本は心のへその緒』松居 直 NPO ブックスタート日販アイ・ビー・エスより抜粋

絵本を読む時間は、親子でその時を共有しますね。それが絵本の良さの大きなひとつと言えます。子どもにとって、絵本を読んでもらう事は《その時間を、自分だけの為に使ってくれている》という事への喜びが大きいのでないか、と思います。その間は、家事などからも離れて自分に向き合ってくれる事、自分の大好きな声に包まれる雰囲気、そして、楽しい絵本…幸せな体験ですよね。そして、実はお子さんのみならず、読み手の大人も同じように暖かい気持ちになる時間になるのでは？と思います。ただ大人が気持ちを他へ向けていると、子どもはすぐに察知してしまいます。絵本を読む時間は、色々気になる事は一旦置いておいて、お子さんとの時間をしっかり味わえるといいですね♪（どうせ同じ時間を過ごすなら、お互いに充実した時間にしたいですよ。）

